

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号 66-0791
施設名 キッズタウンにしおおい
施設所在地 東京都品川区西大井2-5-21
法人名 社会福祉法人こうほうえん

1. 活動のテーマ

自然【自然物の素材の違いに気づく】

<テーマの設定理由>

戸外遊びで自然物を使って音を鳴らして遊ぶ子どもたちの姿から、秋以降更にどんぐりなどの自然物が増え、素材の違いにも気付いていくことを予想し、年長児ならではの素材の特徴を生かした遊びの発展が見られると考えた。

2. 活動のスケジュール

- ・園周辺での戸外活動や地域の公園での探索活動で自然物の收拾（9月頃から増やしていく。）
 - ・楽器遊びを行い、楽器に興味を持つ事で、いろいろな音の違いを知る。
（7月～月2回程度、秋以降増やしていく。）
- 5歳児：22名

3. 探究活動の実践

<準備したもの>

- ・袋、毛糸、画用紙、図鑑、ピアノ（壊れて来たので、合奏・合唱のために買い替えた）

<活動の内容・環境設定>

- ・秋の自然物を使って、何ができるかどんな遊びに繋げていけるか考える機会を作る。
- ・どの公園でどんなものが落ちているかを考えてから、探索活動を行う。
- ・袋を持参し、自分の遊びに使いたいものを持ち帰れるようにする。
- ・拾った自然物を使ってごっこ遊びや楽器製作を行える環境を設定。3月に発表する。
- ・作品展では拾ったどんぐりを真似て画用紙と毛糸で製作する

<活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり>

○探索活動前の話し合い

- ・身近な環境の中で場所ごとに、どんな自然物があるかを考えた。現在の季節だけでなく先の季節の事も考えて、今後拾うことが出来そうなものも子どもの発言にあった。
- ・今までの探索で発見したことだけでなく、家庭で周辺の公園へ行った際に発見した物も共有してくれた子どももいた。

○どんぐりの製作

- ・毛糸を使った製作では、どんぐりの形や色に着目できるようにした。実際に拾ったどんぐりからお気に入りの物を1つ選び、大きさや形、色を細かく観察し、それに合わせた材料で製作を行った。
- ・殻斗は似た色の毛糸を使って表現した。なかには2色にして色の変化を表現した作品もあった。

・実の部分は、画用紙を使って表現した。形にこだわる子どもが多く、どんぐりを置いて見比べていた形を描いていた。何度も描き直す子どもも多く、どんぐりの違いを友達と比べて話したり、保育者に説明したりする姿も多く見られたため、違いにこだわっていたと考える。



○楽器作り

・どんな楽器が手作りできるか子どもと一緒に考えた。実際に楽器を鳴らしたり、大きさを確認したり、どんなふうに音になっているかを確認して、拾える材料から再現できそうなものを考えた。そこで初めて、楽器の音が鳴る仕組みやどんな材質かに興味を持つ姿が見られた。

・探索活動では、使いたい物が拾える公園を自分たちで考えてから向かった。何に使うか、何が必要かを事前に考えることで、よく観察し大きさや形の違いに気付くことができた。また形や大きさにこだわることで、「△△にしたいけど、大きいのと小さいのどっちがいいかな？」と保育者や友達に相談をする機会も増えた。

・自然物を手に取り、「これってどんな音がするかな？」と話す姿が見られたため、近くで保育者が叩いたり、袋に入れて振ったりする姿を見せると「ちょっとやってみよう」と真似をして、「こっちの方がカスタネットっぽいね」と音の違いにこだわっていた。また、たくさんの棒を集めて叩き合わせる子どももいて聞いてみると「ウッドブロックにするから叩いても壊れない棒を探してる」と硬さ・強度にこだわる姿もあった。

・收拾物を使って楽器製作を始めると、ペットボトルや鈴などの材料の大きさも確認していた。自分が拾ってきた自然物に合う大きさや実際に入れたりつけて見た時の音なども確認し、実際の楽器へ近づけようとしていた。自分で確認するだけでなく、保育者や友達にも「聞いてみて」「どっちの音がいい？」と相談していた。

・鈴を作っていた子どもには、実際の楽器に近づけるだけでなく、楽器の使いやすさも考えている姿も見られた。振った時の持ちやすさを考え、何度も確認を繰り返していた。

・マラカスを作る子どもは、2つ作り音の差を作る子どももいた。友達の楽器の作り方に影響を受け、素材を混ぜたり、1つの素材にして個数にしたりしていた。

・出来上がった後に、それぞれの楽器を友達と見せ合い、こだわった所を話していた。友達の楽器にも興味を示し、貸し借りをし合って楽器を楽しんでいた。

・最後に楽器遊びで行ってきた「となりのトトロ」を自作の楽器で演奏をした。演奏後は「いろんな音がして面白かった」と話していた。



<振り返りによって得た先生の気づき>

自然に触れ、遊びに取り入れて遊ぶことに慣れていた5歳児であるが、自然物の特徴に気づき、素材の違いに興味を持つ事で遊びの幅はまだまだ広がると感じた。また5歳児だからこそ先の季節を見越して楽しみにすることもでき、一緒に遊びを計画することもできた。保育者が用意した物でなく、何があるかどう使うかを自分たちで考えることで、創造力も広げることが出来たと感じている。